

## 図書館だより

秋田大学附属図書館

附属図書館ホームページ

<http://www.lib.akita-u.ac.jp/>

医学部分館ホームページ

<http://libra.med.akita-u.ac.jp/>

菅江真澄の道を迎って14

峯浜海岸より岩崎方向の白神山地を望む。

...もと 鹿の津といひしがふりにし名也となん、今は向能代とはいふ也。  
このあたりに古城のあととおぼしき處、弓手の川岸に在り。

(雪乃道奥雪の出羽路)

秋田大学名誉教授 山本穆彦氏：画

## 目次

「文の国」の図書館づくり / 学生の皆さんへ	石川 三佐男	2-3
シリーズ 心に残る一冊 (28)	長沼 誠子	4
シリーズ 心に残る一冊 (29)	石山 大三	5
シリーズ 心に残る一冊 (30)	樋口 重和	6
本学教官等著作寄贈図書 / 最近の動き		7
研修会報告 / 館員の声		8
「秋田大学子ども見学デー」図書館ツアーにも多くの参加者		9
「平成17年度秋田大学附属図書館公開」のお知らせ / 新人紹介		10
医学部分館コーナー ~情報検索用パソコンを利用しよう~		11
図書館カレンダー / 編集後記		12

# 「文の国」の図書館づくり

附属図書館長 石川 三佐男

ここ10年来、私は中国で隔年ごとに開催される二つの国際学術会議に欠かさず参加し、毎回独自の研究成果を発表するいっぽう、学术交流の拡大推進に励んでいる。そのような経緯もあって、中国の大学から学術講演の講師として招聘されることがある（省属高級人文社会科学重点研究基地・首都師範大学HP「中国詩歌網」人物春秋の項参照）。訪中時にはその地域の書店に立ち寄ることは定番だが、博物館や図書館を訪ねることも多い。

2000年6月、天津師範大学から招かれて大学院生を対象に学術講演を行うことになった（写真1）。院生たちは概して質朴誠実、私の講演に真剣に耳を傾けてくれた。お陰で適度の緊張感と快い疲労感を味わうことができた。図らずも天津社会科学院でも講演し、天津図書館では学术交流と歴史的稀覯本を閲覧できることとなった。

天津図書館で受けたカルチャーショックは忘れがたい。それは館員320人、蔵書310余万冊、上海図書館と並ぶ屈指の規模に対してではない。かつて日本居留民が管轄した日本図書館の8万余冊が「日本文庫」として最上階に宝蔵されていることに対してだ。1900年代以降日本で出版した図書がほとんど。日本では散佚したものも少なくない。これらを目前にして胸中複雑な思いにかられた。同館接待の昼食会席上、稀覯本及び「日本文庫」の日本展示の話がもちあがった。日本文庫の一時里帰り。私の力量を遙かに超える壮大な事業計画だ。こうしたなかなか陽のあたらない計画が実現できたなら、日本と中国の友好はさらに深まるに違いない。ただし残念ながらその計画はまだ陽の目を見ていない。

2001年6月、上海の復旦大学から招聘を受けた（写真2）。続いて2003年12月、今度は杭州にある浙江大学から招聘を受けた。文献学は二重証拠法を取ることが通常だ。私の場合、古典作品と文献全般と考古出土資料の比較考証による三重証拠法を取っており、研究成果を含めてそこが目新しいらしい。今回はおまけがついて博士学位論文答弁委員

会委員まで仰せつかった。また同大学の日本文化研究所でも別な演題で学術講演を行うことになった。

浙江大学の招聘者はもと浙江図書館副館長の職にあった中国屈指の文献校勘学家である。その縁で杭州滞在中、浙江図書館館長を表敬訪問することになった。同館訪問に際し深く感銘したことがある。それは浙江省政府による図書館行政への手厚い支援に対してだ。総面積3.4万平方メートル、景観美に富む建造物（写真3,4）、閲覧座席数1670席、蔵書件数450余万冊、500余の座席が配置された超近代的ホール（報告庁）、高速ITを活用した充実した情報機器の配置、多文化言語学習室、遠来の利用者用豪華宿泊施設（招待所）、職員宿舎（大学路館舎・弧山路館舎等）、風光明媚で知られる西湖湖畔に点在する分館、種々の斬新な企画事業の推進等々がその具体内容だ。もちろん同館は地上の楽園都市杭州の知の象徴的建造物となっている。一時間余に涉って接待に当たってくれた同館館長の情熱にも感動させられた。スタッフの接客マナーもこぞって親切丁寧で、実に印象深かった。

中国の図書館では開館を待って利用者が朝から長蛇の列を成している光景がよく目にとまる。都市部の大型書店は良書を求める人々で終日ごった返すように賑わっている。そんな場面に出くわすたびに、私はいつも日本の図書館や書店の状況を振り返るいっぽう、中国は「文の国」だとつくづく感心してしまう。

ただ感心ばかりもしてはられない。日本でも秋田の地でも「文の国」の図書館づくりにいっそう励むべきである。むしろ個性を発揮するための予算措置は欠かせない。幸い2005年7月22日には「文字・活字文化振興法」が制定され、同年8月3日には「秋田大学附属図書館の理念・目標」も制定された。あとは秋田大学の学習者・教職員の一人ひとりがこの精神を汲み取り、日々の学習や職務にどう反映させていくかに懸かっている。

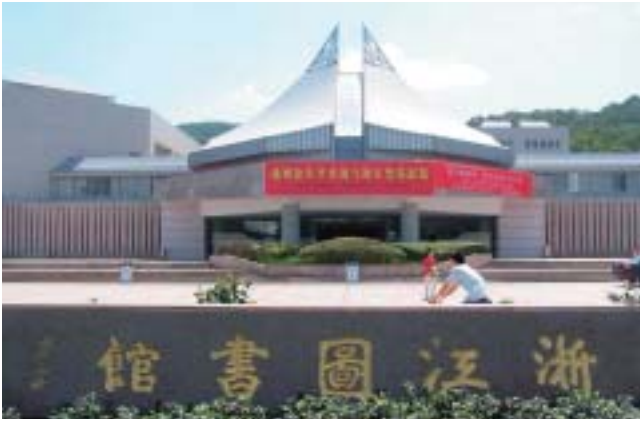
（いしかわ みさお 教育文化学部 日本・アジア文化講座 教授）



(写真1) 天津師範大学学長による招聘書授与



(写真2) 復旦大学での学術講演光景



(写真3) 浙江図書館



(写真4) 浙江図書館玄関ホール  
(パンフレットより)

石川館長から学生の皆さんへ



## 春華秋実 (春の華と秋の実り)

上記写真は「春華秋実」と読みます。これは教育文化学部日本・アジア文化講座の長沼雅彦教授に揮毫いただき館長室に掲げているものです。

この言葉は中国の古典「顔氏家訓」勉学篇にあります。「学問は樹木を植えて育てるようなものである。春はその華をめで、秋はその実りを収穫する。文章のあり方を説いたり論ずることは春の華である。身を修め徳にかなった行いをするのは秋の実りである」。つまり春の華と秋の実りは優れた学業や徳行を喩えています。

学生の皆さんが、この「春華秋実」を大学生活の中でどう咲かせ、どのように収穫するかは「佳き友」「佳き書物」「佳き指導者」との出会いに懸かっています。自ら学び、自ら考え、自ら探求する姿勢を堅持する限り、その機会は誰にでも必ず訪れます。

図書館はその支援に努めます。皆さんは日々図書館を活用し、見事な「春華秋実」を獲得してください。



## 『日本人の味覚』

近藤 弘著  
中央公論社 1976年



長沼 誠子

ここに色褪せた一冊の新書がある。1976年発行の近藤弘著『日本人の味覚』である。

当時秋田大学に赴任して間もない私は、食品の実験的研究の経験しかなく、教育学部における授業や研究の方向性に不安と迷いを感じていた。その解決の糸口をみつけようとして、食の文化に関連する出版物を集めては、読んでいたものである。30年たった今、本の多くは自宅の書棚に眠っているが、『日本人の味覚』だけは研究室の机の上にある。当時引いた青色鉛筆の線をたどりながら、その訳を考えてみた。

食べ物は、時代により、地方地方の風土により、存在の仕方を異にしている。日本列島における食物の存在の仕方、すなわち食物の嗜好、作り方および食べ方、その意識構造を総合したものを、著者は日本列島の味覚構造と称している。1960年から1970年代にかけて日本各地を踏査し、その膨大な聞き書き記録をもとに、日本列島の味覚構造と民族史との関連を解明している。私は、その語りから食物が作りあげられる情景や食卓をにぎわす食物の香味を想い、読みながら満腹感と満足感を得ていた。食文化研究における現地調査による実証の重要性である。

近藤氏は、日本列島は多様な味覚部族の合衆国の観を呈すると述べている。各部族の住み分けから東と西の味覚文化圏を示し、その形成過程まで言及している。例をあげると、魚食については、東のホヤ・イずし、西のフグ・サバずし・タイ。澱粉食では、東のシトギ・糊食・ハンゴロシ・ヒエ・ヤマノイモ、西のモチ・麵食・サトイモ。調味料としては、東のナットウ（一そ）・ズンダ・

豆みそ（二そ）、西の米麦みそ（三そ）・醤油・ヌタ。作成された味覚境界線マップは、わが国における食の地域比較研究の基盤となった。さらに興味深いことに秋田は、上記の東の特徴に加え、タンポ貝焼き、ショツツル貝焼き等の鍋食や、ナッツ、乳酸文化センターという独自の味覚構造を有していた。秋田の食の原点がここにあった。以降、秋田の味覚がどのように存在しているのか、秋田で生活する者として探っているところである。

一方著者は、1960年頃からみえはじめた日本の味覚構造の崩壊に警鐘を与えている。外食産業とマス・メディアの発達による味覚文化の均一化である。大学生に「日本人の食生活の将来像を描け」と出題したところ、「インスタント食 チューブ食 錠剤食」という三段論法の回答が80%ほどあったと述べている。今確かにこのような食が現実にある。しかし、2005年食育基本法の施行に伴い食への関心も高まり、子どもたちの味覚の育成、地域の食文化の創造・継承が国民一人一人の責務になっている。食べ物や食情報があふれている今日、改めて私たちはどのように食べるのか、食べていくのかを考える必要がある。そのための資料とした一冊の本である。

最後に、終章の一文を紹介して稿を終えたい。「欧、華、日と並べて、料理の甲乙を表面的に論ずるのは容易であろう。しかし、私どもの学問は - 生理学、食物学、食品化学はいうに及ばず、食物心理学的にも、食物美学的にも - 、世界の味覚文化の甲乙を論じ得るほどに進歩してはいない。各民族の保有する味覚の多様性こそ、この地球上では、人類の幸福の基礎といえよう。」

(ながぬま せいこ 教育文化学部 生活者科学講座 教授)

“この本は本館2F新書版コーナー 081-C64-454 にあります。”



## 『風の又三郎』



石山 大三

宮沢賢治の「風の又三郎」は子供の頃に読んだ本のひとつでした。この本は、読み返すたびに印象が変わる本です。

子供の頃には風の音や雨などの天候の描写がその独創性のためにあまりに特異で、畏怖の念を感じる本でした。

高校生のおときには四季をつうじて、登山をするようになり、季節の移り変わりと共に、風の動き、太陽の光、木や草花の変化を詳細に感じることができるようになりました。

大学生になってからは、宮沢賢治の自然の描写のすばらしさにひかれ、この本を読んだのを覚えています。

最近になってからは、ひとつの学級が1年生から6年生までの子供で構成されている部分を読ん

で、小学校高学年のときに教育実習校の24人一人クラスの複式学級(6年生12人、5年生12人)に一人の生徒としていたこと、そしてそのクラスで5年生のときに6年生の内容を学んだこと、学年が一年違うのですがみんな同級生として過ごしたことを思い出しました。

また子供たちが川で遊ぶ場面の描写の部分からは、子供のころ強い日差しのもと川で泳いだり魚を捕ったりした思い出がよみがえりました。

このようなことを考えながら読むと、この本の登場人物である子ども達も彼らを包み込む物語の自然の描写も、私の中でますます生き生きとしてきて、新しい物語を読んでいるような気持ちになります。将来、この本を読む機会があるときにどのような印象を持つのか楽しみにしています

(いしやま だいぞう 工学資源学部 地球資源学科 応用地球科学講座 助教授)

“風の又三郎”は本館開架図書1Fの  
宮沢賢治童話集1 (913.8-Mi89)  
宮沢賢治絵童話集12 (918.68-Mi89)  
(新)校本宮沢賢治全集9 (918.68-Mi89)

などに収録されています。





## 『植村直己の 冒険を考える』

本多勝一・武田文男（編）  
朝日新聞社 1984年



樋口 重和

この本の特徴は、偉大な冒険家である植村直己について、敢えて批判的な視点に立って書かれているところにある。植村直己を知らない人は少ないと思うが、彼が厳冬期のマッキンリー単独登頂の後に消息を絶ったのが1984年2月のことである（享年43歳）。彼は五大陸の最高峰（アフリカのキリマンジャロ、南米のアコンカグア、アジアのエベレスト、北米のマッキンリー、ヨーロッパのエルブルース）を全て登頂した最初の登山家である。しかも、エベレスト以外は全て単独である。その他に、アマゾン川6千キロのイカダ下り、北極圏1万2千キロの犬ゾリ単独行、グリーンランドの犬ゾリ単独横断でも有名な冒険家である。北海道稚内から鹿児島まで52日間で歩いたという記録もある。

批判の目が向けられているのは、1978年の北極点犬ゾリ単独行である。本書は、植村直己がこの冒険で「カンニング」を行なったと表現している。飛行機による4度の食料補給を受けていること、食料だけではなく犬やテント、犬ゾリまでも補給されていること、さらに北極点到達後の帰路では犬ゾリで帰らず飛行機を利用していることがその主な理由にあげられている。この本の面白いのは、なぜ植村直己がそのようなカンニングをせざるを得ない状況に至ったのか、植村直己の人間性も含めて洞察されているところにある。

詳しくは是非本書を手にとってもらいたいが、簡単に説明すると次のように書かれている。北極点挑戦は多額の資金が必要なため、企業や国民（子供からお年寄りまで）の募金から1億円以上の資金を得ることになった。植村直己は責任感が強く、誰にも愛される正直な人柄であった。絶対に失敗は許されない冒険となってしまった。無理して遭難するわけにもいかず、カンニングという苦

しい選択を強いられてしまった。完全に植村直己本来のペースを失ってしまった冒険だったようである。

さて、なぜこの本が自分にとって心に残る一冊となったのか。私的なことで恐縮であるが、ここに触れなければ、この原稿も完結しないと思われる。この本を手にしたとき、自分は多少の山登りはしていたが、厳冬期の山に足を踏み入れるような登山家でも冒険家でもなかった（今もそうである）。自分は博士課程3年目で学位審査も終え、授与を待つのみであった。就職も決まっていた。

しかし、精神状態はどん底に近い状態だった。自分の中で、この3年を完全なる失敗作として終えてしまったからである。詳細は省くが、失敗と感じた理由がカンニングにあったことは間違いのない（規則の範囲内のことであっただけだ）。

自分の場合、植村直己の北極点に比べると米粒みたいなものである。しかし、自分の経験と植村直己の冒険を重ね合わせることができたことは大きな意味があった。この種の間違いをおかさないためにはどのような心構えが必要か、冒険とは何か、学問とは何か、プロフェッショナルとアマチュアの違いは何か、本書から学ぶところは多かった。「学問なんて本質は山となんら変わらないでしょう」という編者の言葉も印象に残る。

今になって考えると、偉大で尊敬する植村直己でもカンニングをしてしまったのだと、勝手に自分をなぐさめることができたことが一番大きかったのかもしれない。この原稿を書くことによって、再び自分の中の「冒険心」を呼び覚ますことができた気がする。この機会を頂いたことを感謝いたします。

（ひぐち しげかず 医学部 社会環境医学講座 健康増進医学分野 助手）

## 本学教官等著作寄贈図書（平成16年9月～平成17年8月受入れ）

本学教官が著し、寄贈されたものです。ありがとうございます。

請求記号	書名	著者名（敬称略）	出版社	出版年
291.24-A37 （本館1F）	あきた再発見！	秋田大学定期講演会 企画委員会編	無明舎出版	2005
813.2-N88 （本館1F）	ベネッセ新修漢和辞典	新田大作・福井文雅共編	ベネッセコーポレーション	2005
518.8-Sh49 （本館2F）	地域からの提言	清水浩志郎著	東北文化出版	2005
368.3-Mo83 （本館2F）	心といのちの処方箋	本橋豊編著	秋田魁新報社	2005
373.7-H59 （秋大コーナー）	秋田発!!学校ボランティアによる 学びの広がり	姫野完治編	秋田県学校 ボランティア研究会	2005
（秋大コーナー）	亜鉛電解採取プロセスにおける 不溶性アノード材料の改質と電解挙動	高崎康志著	高崎康志	[2005]
WY150-Ma88k （分館）	看護に役立つ臨床検査ガイド	原田真里子分担執筆	メヂカルフレンド社	2001
WC536-Ka53 （分館）	肝炎診療ガイド	渡辺純夫編著	メジカルビュー社	2003
WV335-Sh96 （分館）	小児のアレルギー性鼻炎	三戸聡分担執筆	現代医療社	2003
WP100-N68 （分館）	NEWエッセンシャル産科学・婦人科学	田中俊誠・小川正樹分担執筆	医歯薬出版	2004
WM401-Ko44 （分館）	心といのちの処方箋	本橋豊編著	秋田魁新報社	2005

\* 図書館では本学教官の著作物（単独著書、共著書、編著書、訳書、分担執筆、学位論文）を、積極的に収集し、利用に供しています。出版の折には御寄贈くださいますようお願いいたします。

\* 57号以降、分館の寄贈図書の掲載が漏れておりましたので今回、平成15年3月受入分まで遡り掲載させていただきました。申し訳ありませんでした。

### 【最近の動き】

1. 「秋田大学附属図書館の理念・目標」が制定されました。
2. 「秋田大学附属図書館蔵書構築基本要項」が制定されました。  
\* 当館が管理する図書館資料の体系的な蔵書構築に関する基本活動を定めたもの
3. 「秋田大学附属図書館図書管理要項」が制定されました。  
\* 図書の資産管理に関し、必要な事項を定めたもの
4. 「秋田大学附属図書館学生用図書選書基準」が制定されました。  
\* 学生用図書の選書に関する基本方針、選書方針、選定基準を定めたもの  
1～4の詳細（全文）は図書館HPをご覧ください。
5. 「教科書展示コーナー」が本館2Fホールに設置されました。  
詳細はNewsletter No. 7参照

# 平成16年度東北地区大学図書館協議会 合同研修会に参加して

事務長補佐 小林 清

去る7月22日(金)の午後、秋田市雄和にある国際教養大学において、平成16年度(注)東北地区大学図書館協議会合同研修会が開催された。この研修会は毎年各県の参加館が持ち回りで開催しているもので、今回は「秋田の新しい挑戦」をテーマに企画された。

当日は東北各地より42人の参加があり、緑に囲まれた静かなキャンパスにある講堂で行われた。

はじめに中嶋嶺雄国際教養大学学長の挨拶があり、勝又美智雄国際教養大学図書・情報センター長による「24時間オープン図書館の実情と展望」の基調講演があった。

そのあと県内の各大学より事例発表があり、秋田大学からは「秋田大学附属図書館の新たな取り組みについて」と題して加賀谷龍悦図書情報係長が当館

の理念・目標や中期計画・中期目標に添った事業等を発表した。

各大学の取り組み方について、本学でも参考になるとされる「24時間開館」や「市民の協力体制づくり」など、新しい発見があり大変有意義な研修会であった。

ただ少し発表時間が短く、全部を発表し切れなかった大学もあり残念に思った。事例発表後は発表者に対し、参加者より質問が出るなど盛会のうちに閉会した。

研修会終了後は国際教養大学の図書・情報センターを参加者全員で見学し、その素晴らしい施設に感激して帰路についた。

(注) 東北地区大学図書館協議会の会計年度は9月1日～翌年8月31日

## ● 館員の声

## 一 図書館員の憂鬱

文字・活字と図書館は相性が良い。相性が良いどころか、文字は図書館の母といってもいいかもしれない。

このほど「文字・活字文化振興法」が制定された。国民の活字離れに何とか歯止めをかけたいとの思いが、法律として成立したようだ。

図書館は文字・活字文化振興の一翼を担っているという自負から、活字文化の振興を図るという趣旨には共感するが、法律で一所懸命応援すれば、本が読まれるようになるのだろうか？ 学術書はともかく、どうして出版社は読まれる本を作らないのだろうか？ 等々素朴な疑問が湧きあがる。

「振興法」は国や地方公共団体に公立図書館の充実を求めたり、学校教育における「言語力」の涵養に配慮が必要であると、ことは学校図書館を含む学校教育にまで及んでいる。しかしその趣旨・精神においては既に現行の図書館法、学校図書館法でいわ

れていることと大差はなく、さほど目新しいものではない。

つまり、「振興法」は現行の法、施策との関連が明確ではなく、日本図書館協会では、現行の法律によって国の任務としている図書館基盤の改善や、整備、充実が可能であるから、真に実効力あるものとして施策化していくことこそ必要なことであると、「振興法」成立前に声明を出している。

「読む」ということは本来個人の自由意志であるから、法律によって促進されたり制限されたりするものではないし、関連する幾つもの法律によって護られているようにみえても、実効あるものでなければ、活字文化を支える基盤は脆弱であり、幻に過ぎない。現在の図書館が置かれた状況が証明しているように。

「文字・活字文化振興法」が成立したからといって、無邪気に喜んでばかりいられない現実がある。



# 「秋田大学子ども見学デー」開催 図書館ツアーにも多くの参加者

8月19日（金）に “来て・見て・感じて・楽しもう！” というテーマのもと、平成17年度「秋田大学子ども見学デー」が開催されました。秋田大学各施設の仕事の説明を聞いたり、見学、工作などを通じて親子のふれあいを深めること、夏休み中の子どもたちが広く社会を知る体験活動の機会とするとともに、大学に対する関心を深めてもらうことを目的として今年初めて実施されました。

当日は全学で120名以上の参加者があり、図書館へも13家族37名（うち子ども23名）が訪れました。

図書館コースは石川館長の挨拶（写真1）の後、3班に分かれて、“自動貸出装置”（写真2）“インターネット（電子ブック）”（写真3）“メモ帳作製”（写真4）を順番に回って体験していただきました。

係員の説明で実際に貸出カードを使ったり、パソコンで本を読んだり、メモ帳を作ったりして、短い時間でしたが楽しんでいただけたようでした。



（写真1）



（写真2）



（写真3）



（写真4）

平成17年度  
秋田大学附属図書館公開



10月8日(土)9:00~17:00

1. 図書館内の一般公開

→パソコンによる蔵書検索→

2. 図書館所蔵の貴重図書

≪北方教育資料≫の公開 2冊 フォイ学習室

3. 妹尾春樹医学部教授講演会(平成17年度日本ビタミン学会賞受賞)

「ビタミンA貯蔵細胞(星細胞)の研究

—北極圏の動物と人々、グリーンランドでの体験—

「ノルウエー、オスロ大学図書館紹介」

※ 蔵書案内

2階 第3図書室にて  
13:00-14:30

お問い合わせ 秋田大学附属図書館(本館)

秋田市平野字園町1-1 平野キャンパス内 018-888-2279

平成17年度秋田大学附属図書館公開

妹尾春樹医学部教授講演会のお知らせ

1) ビタミンA貯蔵細胞

(星細胞)の研究

- 北極圏の動物と人々、

グリーンランドでの体験 -

「分子レベルからフィールド調査まで  
珍しい写真を多数使用し紹介いたします。」



2) ノルウエー、オスロ大学図書館紹介

「素晴らしい秋田の大学図書館を豊富な写真でツアー体験してみよう」

主催 秋田大学附属図書館

【趣 意】

【期 日】 10月8日(土) 13:00 ~ 14:30 (大学教職員中)

【会 場】 附属図書館 2F 第3図書室

秋田市平野字園町 1-1 (秋大 平野キャンパス)

※ 大学教職員につき、駐車場やキャンパス内の道路が予想  
されますので、ご来場の際は出来るだけバスでお願いいたします。  
(送迎無料)



【講 師】 妹尾 春樹(せのお はるき)

・秋田大学医学部医学科構造動物医学講座 教授

(細胞生物学分野)

・前所属図書館医学部副館長

○平成17年度日本ビタミン学会賞受賞

「ビタミンAは、主眼に必須であるだけでなく、自由病の発症にも関与され、

がん予防の有効性も報告されている。長年におわたる、その機能やそれを貯蔵する

星細胞に関する研究が評価され、受賞に至る」

◆主要研究テーマ

→がんの抑制や人工臓器開発に役立つ星細胞の研究

・北極圏動物のビタミンA貯蔵と環境汚染物質の蓄積および北極圏北極圏のがん疫学研究

# 新人紹介

原 智子

この4月に九州は宮崎からやってまいりました。これまでも大学図書館に勤務していましたが、初心を忘れて10数年、またこちらで一から勉強させていただけることに感謝しています。

南国育ちの私にとって、はじめての東北での生活は新鮮そのものです。未だ全身に雪を纏う春の鳥海山の美しさにため息し、初夏の奥入瀬の新緑に心癒されました。これから迎える秋に燃えるような紅葉を想像しては胸踊らせ、経験のない雪国の冬の到来を不安と同じくらいの「わくわく」した気持ちで待っています。

新人というには少々「とう」がたっていますけれども、どうぞよろしくお願いたします。



(はら ともこ 医学部分館図書係)

# 医学部分館コーナー

～情報検索用パソコンを利用しよう～



医学部分館に入るとすぐ右手前方（1階）に『情報スペース』があります。そこにヒポクラテス像に見守られるように情報検索用パソコン14台が並んでいます。

情報検索用パソコンでは次のような利用ができます。マナーを守って、有用な情報をGET！しましょう。

ヒポクラテス[Hippocrates]紀元前460頃 - 紀元前375頃  
古代ギリシアの医師。医学の祖、医学の父、医聖などと尊称される。 - 医学書院「医学大辞典」より抜粋

## 蔵書検索システム（OPAC）用 … 2台

本学所蔵の図書・雑誌などが検索できます。2階閲覧室にも専用パソコンを1台設置しています。  
蔵書検索システム（OPAC）は分館ホームページ（<http://libra.med.akita-u.ac.jp>）からどこでも利用可能。

## 文献検索・電子ジャーナル用 … 5台

医学、保健・看護学関係でよく利用される文献検索データベースや電子ジャーナルが利用できます。

PubMed	世界の医学・生物学分野の雑誌約4800誌に掲載されている論文を検索できる。学外からも利用可能。検索結果に当学の所蔵状況及び電子ジャーナルアイコンが表示される。
医中誌Web	国内の医学・看護学等関連領域の約2,400誌に掲載されている論文を検索できる。レポート作成や保健学科学生の卒論執筆に必須！
Cinahl	看護とその関連領域の英語文献が検索できる。雑誌論文のほか、図書や博士論文、AV資料のデータも検索できる。
Cochrane Library	国際的な医療評価プロジェクトであるコクラン共同計画が発行するデータベース。
UpToDate	医師による臨床支援ツール。雑誌からの確かつ臨床に応用可能な情報を収集、年3回・約30%ずつ内容を改訂・更新。図表やX線写真等グラフィックス、薬剤情報、MEDLINEの抄録等々関連情報を多数収録。臨床医必見！
電子ジャーナル	無料公開または本学で契約している電子ジャーナルを利用できる。

～ は学内専用。 は一部学外からの利用可能。

## CD-ROM検索用 … 3台

医学、保健・看護学関係でよく利用される下記のようなCD-ROMが利用できます。

JCR (Science ed.)	雑誌の重要度、影響度を把握する上で有効な指標であるインパクトファクターを調べることができる。
今日の診療	「今日の治療指針」をはじめ「治療薬マニュアル」など医学書院の8冊を収録したCD-ROM。
最新医学大辞典	医歯薬出版「最新医学大辞典」の全項目・全図版・全画像が検索できる。

は学内専用。 と は分館の指定のパソコンのみ利用可能。

## インターネット用 … 4台（うち1台はMacintoshマシン）

学習・研究のための利用に限ります。節度ある利用をお願いします。

### < 利用上の注意 >

- ・ WordやExcelなどの文書作成や表計算ツールは利用できません。
- ・ 文献等検索結果及び電子ジャーナルのみカウンタープリンターで印刷できます。件数が多い場合はフロッピー等をご用意ください。
- ・ フリーソフトなどのダウンロードや設定の変更は禁止しています。
- ・ 基本的人権や著作権等を侵害するような行為は決して行なわないでください。

### 分館News!

\* 6月1日から学部学生の貸出冊数及び期間を下記のとおり変更しました。

2冊・10日間

3冊・1週間

\* 視聴覚室にDVDPlayerを設置しました。

# 平成17年度秋田大学附属図書館開館カレンダー

## 本館

10月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

10/1 後期開始

11月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

12/26 冬季休業開始(～1/8)  
12/29～1/3 年末年始休館

1月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1/8 冬季休業終了  
1/21・1/22 大学入試センター試験

2月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

2/23 春季休業開始(～4/4)  
2/25・2/26 入学者選抜試験(前期)

3月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

3/13 入学者選抜試験(後期)  
3/22 卒業式  
3/31 後期終了

date 平日 8:30～20:00 date 土曜・日曜・休日 9:00～17:00 date 長期休業期間等 8:30～17:00 date 休館

## 分館

10月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

11月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

1月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

3月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

## 編集後記

長い夏休みも終わりましたね。心身ともにリフレッシュされたことでしょう。じりじりした日差しの季節も通り過ぎました。秋風を感じながら、読書の時間を設けてみてはいかがでしょうか? 『心に残る一冊』が見つかりますように。

## 図書館だより 第61号

2005年10月1日発行

編集 秋田大学附属図書館出版物編集委員会  
 発行者 秋田大学附属図書館  
 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1  
 TEL 本館018-889-2279 分館018-884-6052  
 FAX 本館018-832-4917 分館018-884-6252  
 E-mail: 本館 riyo@lib.akita-u.ac.jp  
 分館 medlib@lib.akita-u.ac.jp